

## 被災回復状況

分子変換化学分野  
教授 根東 義則

3月11日の大震災では、C棟4階の分子変換化学分野の研究室でも揺れは激しくまた長い時間続きました。田中准教授の携帯電話の緊急地震速報を受けて、大急ぎで研究室内の全員で実験室からエレベーター前の廊下に避難しましたが、壁にしがみついて立っているのがやっとでした。揺れがある程度収まった段階で恐る恐る実験室内をのぞくともはや見るも無残な姿で、実験台の上の器具や装置はことごとく床に落ち、また溶媒や試薬も床に散乱し、実験台の引き出しもほぼすべて全開になっていました。固定してあった本棚も倒れ、書籍、ファイルは飛び散りあたり一面は足の踏み場もないという状態でした。もし実験室内にとどまっていたらかなり危険な状態に巻き込まれていたと思われます。建物の外に避難後、学生の皆さんにはご自宅あるいはご実家での待機をお願いしました。余震が徐々に収まる様子を見ながら先生方はその後一ヶ月がかりで少しずつ研究室の片付けを進めておりました。ようやく床の散乱物の片付けにめどが立ったところに、4月7日の大きな余震でまた再び研究室は混沌とした状態に逆戻りで、かなり脱力感を感じておりました。多くの同窓生の皆様からの温かい励ましのお言葉に力を得てその後再び復旧に向けて作業を進め、震災から2ヶ月後にはある程度研究再開への見通しも立てられるようになりました。建物が崩壊するのではと恐怖を覚えた揺れにも関わらず、C棟では建物自体の被害はA、B棟に比べると少なかったため、設備を修復すれば実験を再開できるのはまだ不幸中の幸いでした。4月に入ってから学生の皆様にも一緒に復旧に協力していただき、3ヶ月たった現在では、限られた範囲ではありますが少しずつ実験を再開することができ、何とか研究を前に進めたいと研究室一同意欲的に取り組んでいます。まだ元通りになるまでにはそれなりに時間はかかりますが、皆で力を合わせて頑張っていきたいと思います。同窓生の皆様の温かいご支援に心より厚く御礼申し上げます。